

高等学校 芸術科(書道)

1 改訂の趣旨及び要点

改訂の基本的な考え方

- ・感性を働かせて、能動的に、表現を構想し工夫したり作品の意味や価値を見出したりする学習となるよう、内容の改善を図る。
- ・国語科書写との円滑な接続を図るとともに、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化についての理解を深める学習の充実を図る。
- ・表現と鑑賞の学習に共通に必要な資質・能力を〔共通事項〕として示す。

目標の改善

芸術科(書道Ⅰ)で育成を目指す資質・能力を三つの柱で整理しています。

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

知識・技能の習得

書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

思考力・判断力・表現力等の育成

書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書之美を味わい捉えたりすることができるようにする。

学びに向かう力・人間性等の涵養

主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

学習内容の改善・充実

☆指導事項を分けて示し、指導すべき内容を一層明確化

「A 表現」((1)漢字仮名交じりの書 (2)漢字の書 (3)仮名の書)、「B 鑑賞」、〔共通事項〕について、指導事項を「思考力・判断力・表現力等」「知識」「技能」の観点から整理しました。

☆〔共通事項〕の新設

「A 表現」及び「B 鑑賞」の学習において共通に必要な資質・能力 (2 項目) を、「知識」に関する資質・能力と位置付け、新設しました。

☆言語活動の充実

「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るため、芸術科書道の特徴に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫することを示しました。表現領域では「題材としての言葉を紡ぎ出したり選定したりする場面」「作品を構想し表現を工夫する場面」鑑賞領域では「作品について根拠をもって批評する場面」を示しました。

☆書道Ⅲの内容の充実

書道Ⅲを含めすべての科目で「知識」、「技能」、「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力をバランスよく育成できるようにしました。

内容の取扱い等

☆書道Ⅰ・Ⅱ 「A 表現」における篆刻・刻字等

書道Ⅰでは「篆刻・刻字等については可能な限り扱うようにするということ」であり、書道Ⅱでは「篆刻については必ず扱うもの」(解説)と示されています。

☆書道Ⅱ・Ⅲ 領域の取扱い

書道Ⅱ内容の「A 表現」については (1) を扱うとともに、(2) 又は (3) のうち一つ以上を選択して扱うことができる。とし、書道Ⅲ内容の「A 表現」については (1) 、(2) 又は (3) のうち一つ以上を、「B 鑑賞」の (1) のイについては (ア) 、(イ) 又は (ウ) のうち一つ以上を選択して扱うことができると示されています。

2 高等学校芸術科(書道)における授業づくりのポイント

ポイント①：主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

芸術科書道では「書に関する見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞の活動の関連を図るなどして、書の特質について理解するとともに、創造的な表現を工夫したり、書のよさや美しさを深く味わったりする過程を大切にしたい指導の充実を図ることが求められます。指導に当たっては、生徒や学校の実態、指導の内容に応じて、次のような「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善を行うことが大切です。

【主体的な学びの視点】
単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できるようにする。
【対話的な学びの視点】
思考力、判断力、表現力等の育成の観点から、言語活動を通して書に対して感じたことを言葉で表現したり、考えを伝え合い深めたりする。
【深い学びの視点】
表現及び鑑賞の活動について「書に関する見方・考え方」を働かせ、習得・活用・探究という学びの過程の中でより質の高い学びにつなげる。

ポイント②：書に関する見方・考え方を働かせる

書に関する見方・考え方	感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと。
-------------	---

「深い学び」の鍵になるのが「見方・考え方」です。今回の改訂で新設された〔共通事項〕は「A 表現」及び「B 鑑賞」の学習において共通に必要な資質・能力で、「知識」として位置づけられました。それを身に付けるためには、書に関する見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の活動を通して、一体的に育成されることが重要です。「ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。」「イ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。」の2つが指導事項です。

ポイント③：書の「A 表現」、「B 鑑賞」の領域及び〔共通事項〕を通して、書の意味や価値を見出す資質・能力を育む

芸術科書道 I では従前通り「A 表現」では(1)漢字仮名交じりの書(2)漢字の書及び(3)仮名の書の三分野全てを学習することとし、「B 鑑賞」の領域も併せて総合的に書に関する理解を深めることを目指しています。例えば育成を目指す資質・能力の「思考力、判断力、表現力等」については、「知識」や「技能」を得たり生かしたりしながら、「A 表現」では、作品を構想し表現を工夫すること、「B 鑑賞」では、作品や書を味わって捉える資質・能力の育成を目指しています。

<書の「表現」と「鑑賞」活動の典型例>

<指導のポイント>

<p>①作品の表現を通して思考・判断・表現する活動（漢字仮名交じりの書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字形、文字の大きさについて、自らの構想に基づき漢字と仮名が調和するよう構想し工夫する活動 ・目的や用途に即し、表現効果を考え、題材となる言葉の内容を踏まえて、表現方法や表現形式を工夫する活動 <p style="text-align: right;">など</p>	→	〔共通事項〕との関連を図り、書を構成する要素や用筆・運筆から生み出される表現性の視点をもって指導します。
<p>②臨書活動を通して技能を身に付ける活動（仮名の書）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用筆・運筆によって線質が変化することなど、表現効果との関わりを踏まえて身に付ける活動 ・言語としての「時間性」に基づき連続して書かれる連綿について、運筆の律動性や筆脈の把握を通して、字と字を無理なく自然に続ける表現として捉え、身に付ける活動 <p style="text-align: right;">など</p>	→	技能を習得してから、構想し工夫するといった順序性をもって育成するものではないことに留意します。
<p>③線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりを鑑賞する活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2種の漢字の古典を臨書する過程で、線質、字形、構成、それらによる表現性や風趣を味わって捉える活動 ・現代の生活や社会の中で果たしている幅広い書の役割について理解し考えることを通して、自らの生活や社会の中で主体的に生かす意識や態度を養う活動 <p style="text-align: right;">など</p>	→	表現と鑑賞とは有効に作用するものであり、表現と関連付けて鑑賞について指導することが大切です。

3 高等学校芸術科(書道)実践事例

単元(題材)の流れ

◆本時の学習と前後のつながり

時間	主な学習内容・学習活動	学習過程
これまで (1～6時間)	○隷書の特徴について理解を深め、隷書を活かした漢字仮名交じり文の表現を考える。 ・隷書の特徴を理解し、基本用筆を習得する。(ICTによる鑑賞教材の活用) ・隷書の古典を臨書し、波磔の用筆を習得し、字形や全体の構成を工夫する。(作品・ワークシート) ・漢字(隷書)と平仮名の調和についてグループで工夫する。(作品・ワークシート)	習得 課題発見
前時 (7・8時間)	○リレー書道について理解する。 ・表現する言葉、文字の選定、隷書体調べ、表現上の注意点についてグループワークで取り組み、表現する。(作品・ワークシート)	解決方法の検討と計画 活用
本時 (9・10時間) ※ 題材のまとめ	○リレー書道で「相談室だより」の題字を書く。 ・前時に決めたリレー順に基づき、既習の知識や技能をグループワークを通して活用し表現する。 ・リレー書道1回目の各グループ作品を相互に鑑賞し、2回目に向けて再考し、取り組む。 ・リレー書道2回目の作品をクラス全体で鑑賞・共有し、そのよさを味わっている。	課題解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善

深い学びを実現するためのポイント

学習領域の横断や関連付けで生徒の思考を深め・結び・つなぐ題材構成

書に関する見方・考え方は領域横断的な視点です。実践事例では、「相談室だより」の題字を、隷書を活かした漢字仮名交じりの書で表現しよう。」を学習目標とし、題材の終わりに生徒が「何ができるようになるのか(題材の目標の下線部分)を明確にした上で、「感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点」を鍵にして、「A 表現」と「B 鑑賞」の学習内容を相互に有効に作用させた授業を構想しています。隷書の古典に関して習得した知識と技能を表現活動に活かし、個人とグループで、表現と鑑賞を通じての工夫をすることで思考を深めた学習をすることができます。

課題解決的な学習過程の中で知識・技能を生かしながら多角的に考えさせる

知識・技能の習得のみが最終的な目標ではありません。生徒が習得した知識・技能を現代の生活や社会の中で生かす意識や態度を養うような学習ができるよう、課題解決的な学習過程を常にイメージして、授業の中に考える場面を効果的に設定しましょう。

実践事例は、題材全体が課題解決的な学習過程を辿っており、前時と本時が知識・技能を「活用」する場面です。隷書の古典や、漢字と平仮名の調和を工夫する学習を通して、生徒は課題に向けて個人とグループでの鑑賞活動の過程を踏まえることで、より良い表現を求めて課題に取り組むことができます。

生徒の思考や探究を深める「問い」や支援

生徒がものごとを多面的・多角的に考える場面で思考を深めていく際、教師の「問い」が大きな役割を果たします。本時では、単元としての目標に向け、学習過程の各ポイントで、生徒の思考を揺さぶる「問い」を投げ、支援することで、生徒は課題を認識し、解決の選択肢をより広い視野で検討したりするようになります。

また、個人で考える場面とグループで考えを出し合い聞き合う場面を螺旋系でつなげることで、グループでの意見交流で自分の考えを明確にしたり、お互いの考えを広げ深めたりすることにつながっています。

【 生徒の思考を揺さぶる「問い」(参考例) 】

生活で身近に感じる
隷書の実例は何か。

リレー書道の取組みで、作品
はどのように変化したか。

表現の工夫のために、グループ
活動で役立つことは何か。

作品を鑑賞し、それを表現
にどのように生かすか。

本時の指導計画

- ◆科目・学年 書道Ⅱ・2年
- ◆単元名(題材名) 隷書を活かして漢字かな交じりの文の題字を書く (全 10 時間)
- ◆学習指導要領(平成 30 年告示)との関連 A 表現 (1) 漢字仮名交じりの書
- ◆単元(題材)の目標

日常生活における隷書の効用や伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、その美しさを感じ取っている。隷書の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技能を身に付け表している。隷書を活かした漢字仮名交じりの書について、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫することができる。

◆本時の目標

- ・隷書の用筆や字形を理解し、自らの意図に基づいて字形や全体の構成を工夫している。漢字と平仮名の調和について理解し全体の構成を工夫している。[思]
- ・グループ全員で一つの作品を表現するために、互いの表現のよさ味わい、取り組もうとしている。[関心・意欲・態度]

◆主な学習の流れ (9・10 時間目)

学習活動	指導上の留意事項
1. 本時の学習目標を理解する。	
「相談室だより」の題字を、隷書を活かした漢字仮名交じりの書で表現しよう。	
2. リレー書道について理解する。 ○グループでの話し合いと工夫の記録が評価につながることを理解する。	・題字として評価の高い作品は校内で配付する文書「相談室だより」に使用されることを伝える。
3. 各グループでリレー順に基づき、一画ずつ書き、練習する。 ○一人で書いた作品に見えることを意識して取り組む。	・道具は固定させ、書く人が交代してリレーするように注意を促す。 ・1 画目を書く人が全体構成においても重要な役割を果たすことを共有させる。
4. 制作過程で出た意見を集約する。 グループ	・グループの意見を記入する担当の生徒を中心に、取り組ませる。
5. リレー書道 1 回目 ○完成した作品を鑑賞し、その内容を記録する。 個人	・作品が完成したら黒板に掲示する。 ・自分のグループの作品について、良い点・改善すべき点をワークシートに記入させる。
6. クラスでめざす表現を考える。 ○作品全体を鑑賞し、クラスでめざす作品について意見を出し合い、共有する。	・文字の大きさ、全体構成、用筆等作品を鑑賞する際の観点を提示し、提示された作品から「めざす表現」に近い作品はどれかを考え、自分のグループの改善点を話し合わせる。
7. リレー書道 2 回目 ○1 回目と 2 回目の作品について話し合い、記入し発表する。 グループ	・グループの意見を発表係に発表させる。 ・発表内容に対し、必要ならば補足する。
8. 本時のまとめと振り返り。 個人	・作品制作過程と鑑賞をワークシートに記入させる。